



## 沢庵和尚ゆかりの地、大崎発。

# “ビルの谷間のたくあん祭” (= ビルの谷間のたくあん祭「お新香の逆襲」) に蘇る「温故知新」

過去から現在、未来へと受け継がれていく「ふるさと大崎」のDNA (原風景)を訪ねる『おさき今昔物語』。

その第二十七話は、“ビルの谷間のたくあん祭”(通称)として実現した、名僧沢庵和尚由来の「たくあん漬け」再評価イベントの話。徳川三代将軍家光へ、贅を排し、質実な暮らしと素朴な味わいの大切さを「たくあん漬け」を通して論じたとされる「たくあんストーリー」。その哲学と「たくあん漬け」の深い味わいが、今、ゆかりの地大崎から、新たなムーブメントとして蘇り、発信されています。

### History

H26年、沢庵と東海寺を「今昔物語」で紹介小誌「今昔物語」に、兼ねてから検討されていた沢庵ストーリーを紹介。名僧を偲ぶ「沢庵祭」の開催も提案される

H29年、「たくあんまつり」の開催を企画日増しに高まる「たくあん祭」開催への期待に応え、具体的なプログラムを検討

H30年、初の“たくあん祭”を開催ゲートシティホールでの「たくあんシンポジウム」をはじめ、全国のたくあん試食会を開催

H31年、本開催。今後の路線も軌道に“ビルの谷間のたくあん祭「お新香の逆襲」”イベントを開催。今後への期待も膨らむ



開催成功に沸く主催陣。オープニング会場にて

お酒やご飯などに合う様々なたくあんを選んで試食。たくあんの多彩な味わいを時味し、評価する「夢たくあんグランプリ」



会場はSNS等を通じて集まった若いグループでいっぱい



徳川家光が沢庵和尚のために建立した「東海寺」。品川を臨む豊かな自然に囲まれた名刹でした。



2/22、23の2日間にわたり大崎駅前で行われた“ビルの谷間のたくあん祭「お新香の逆襲」”イベントでは、全国のたくあん販売をはじめ「夢たくあんグランプリ2019」も開催。「たくあん」のキーワードの持つユニークさや新鮮さも手伝ってか、大勢の人々が詰めかけています。

去る2月22・23日、大崎駅南改札口前デッキ(夢きん橋)で行われた「ビルの谷間のたくあん祭「お新香の逆襲」(沢庵和尚夢見の会、他?者主催)には、大勢の通行客やオフィスワーカーが集まり、珍しい「たくあん漬け」絡みのイベントとして注目を集めました。たくあんを盛り上げるイベントと銘打って行われたこの催し、沢庵和尚が晩年を過ごした名刹「東海寺」にほど近い大崎ならではの地縁イベントとして誕生。ここから今、沢庵和尚が伝えた「たくあん漬け」の新しい価値と深い味わいの「逆襲」が始まっていきそうです。



沢庵の遺筆となった「夢」の一字に絡めて...  
「たくあん」の世界を、全国のご当地たくあんの販売を通じて紹介。さらに今後は現代に生きるお新香そのものの持つ価値の再発見を目指して開催していく予定(主催者談)とのことです。また、2月22、23日に行われた催しでは、とくに「夢たくあんグランプリ」と称して、全国のたくあんから今年の「夢たくあん」を来場者の試食と投票結果で決めるという意欲的な催しも行われています。(なお、「夢たくあん」とは、沢庵和尚が書き残した有名な「夢」の一字の書に因んだタイトル。投票結果は、沢庵の故郷、兵庫県豊岡市の「沢庵寺のたくあん漬」がグランプリを受賞しています。)大崎から発信する、日本伝統の食文化提案が、今、「温故知新」の諺どおり、新たな世界観を切り開いていきそうです。

「ビルの谷間のたくあん祭「お新香の逆襲」」イベントでは、こうした歴史ストーリーが証す味わい深い「たくあん」の世界を、全国のご当地たくあんの販売を通じて紹介。さらに今後は現代に生きるお新香そのものの持つ価値の再発見を目指して開催していく予定(主催者談)とのことです。また、2月22、23日に行われた催しでは、とくに「夢たくあんグランプリ」と称して、全国のたくあんから今年の「夢たくあん」を来場者の試食と投票結果で決めるという意欲的な催しも行われています。(なお、「夢たくあん」とは、沢庵和尚が書き残した有名な「夢」の一字の書に因んだタイトル。投票結果は、沢庵の故郷、兵庫県豊岡市の「沢庵寺のたくあん漬」がグランプリを受賞しています。)大崎から発信する、日本伝統の食文化提案が、今、「温故知新」の諺どおり、新たな世界観を切り開いていきそうです。



沢庵宗影頂相 / 東海寺所蔵  
光が、心酔する沢庵の為に建立した東海寺

大崎駅から歩いて約20分ほど(北品川三丁目)の距離にある萬松山東海寺。ここで生まれた「たくあん漬け」にまつわる逸話は、名僧沢庵の徳の高さを物語るストーリーとして今に伝えられています。徳川三代将軍家光が、心酔する沢庵の為に建立した東海寺での出来事。それは、美食を極めた家光に出した東海寺の保存食「貯え漬け」がその発端でした。口の肥えた家光へ沢庵が逸品料理として出した漬けものの素朴な味わいをいたく気に入り、その名を「貯え漬け」でなく「沢庵漬け」とせよ、と命じたとされるこの逸話は、質実な暮らしの大切さを將軍に諭した名僧沢庵の高潔さと共に、「たくあん漬け」の価値と深い味わいを後世に伝えたのでした。

全国のたくあんで一堂に紹介。さらに、現代に求められる「お新香」の価値と新しさの追求へ

「ビルの谷間のたくあん祭「お新香の逆襲」」イベントでは、こうした歴史ストーリーが証す味わい深い「たくあん」の世界を、全国のご当地たくあんの販売を通じて紹介。さらに今後は現代に生きるお新香そのものの持つ価値の再発見を目指して開催していく予定(主催者談)とのことです。また、2月22、23日に行われた催しでは、とくに「夢たくあんグランプリ」と称して、全国のたくあんから今年の「夢たくあん」を来場者の試食と投票結果で決めるという意欲的な催しも行われています。(なお、「夢たくあん」とは、沢庵和尚が書き残した有名な「夢」の一字の書に因んだタイトル。投票結果は、沢庵の故郷、兵庫県豊岡市の「沢庵寺のたくあん漬」がグランプリを受賞しています。)大崎から発信する、日本伝統の食文化提案が、今、「温故知新」の諺どおり、新たな世界観を切り開いていきそうです。

美食を極める徳川家光へ、逸品料理として出した「たくあん漬け」の味わい